



平成22年10月29日

各位

上場会社名 星和電機株式会社
 代表者 取締役社長 増山 晃章
 (コード番号 6748)
 問合せ先責任者 専務取締役 愛知後 秀作
 (TEL 0774-55-8181)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,600	△500	△550	△400	△33.03
今回発表予想(B)	7,100	△715	△760	△1,130	△93.32
増減額(B-A)	△500	△215	△210	△730	
増減率(%)	△6.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	7,374	△382	△446	△192	△15.92

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,700	800	750	650	53.67
今回発表予想(B)	20,000	200	100	△200	△16.52
増減額(B-A)	△700	△600	△650	△850	
増減率(%)	△3.4	△75.0	△86.7	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	21,979	1,607	1,521	1,176	97.11

平成23年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,500	△500	△550	△400	△33.03
今回発表予想(B)	6,960	△720	△755	△1,120	△92.50
増減額(B-A)	△540	△220	△205	△720	
増減率(%)	△7.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	7,253	△391	△449	△199	△16.44

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,500	800	750	650	53.67
今回発表予想(B)	19,800	200	100	△200	△16.52
増減額(B-A)	△700	△600	△650	△850	
増減率(%)	△3.4	△75.0	△86.7	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	21,716	1,586	1,506	1,182	97.68

修正の理由

1.第2四半期累計期間

売上高は、民間設備投資の低迷による産業用照明器具の落ち込みなどにより連結・個別ともに前回発表値を下回りました。利益につきましては、道路情報機器の原価率上昇と減収により連結・個別ともに前回発表値を下回りました。

なお、平成20年9月に当社に対して独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構より提起されていた訴訟について平成22年10月1日に東京高等裁判所より判決がありました。これに伴い特別損失として賠償金引当不足額233百万円を計上しております。

2.通期

道路情報機器は予想どおり推移する見込みではありますが、道路・トンネル用照明器具は、予想より需要が減少する見込みであります。

一方、民需関連では、リーマンショック以降、客先の景況感が回復しておらず、設備投資の停滞から産業用照明器具などの売上が予想以上に低水準で推移しております。

これら照明機器事業の苦戦により、売上高・利益は、連結・個別ともに前回発表値を下回る見込みとなりました。このような状況のなか、全ての事業において引き続き生産性の向上や業務の合理化による経費の削減、徹底したコストダウン活動による原価の低減を図り、利益の確保に努めてまいります。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以上